



## スポーツ医学講座

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福島県立医科大学附属学術情報センター 公開日: 2021-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2001117">https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2001117</a>

# スポーツ医学講座

## 論 文

### 〔原 著〕

Otoshi K, Kikuchi S, Kato K, Kaneko Y, Mashiko R, Sato R, Igari T, Kaga T, Konno S. Sufficient duration of off-season decreases elbow disorders in elementary school-aged baseball players. *Journal of Shoulder and Elbow Surgery*. 201906; 28(6):1098-1103.

園部 樹, 小平俊介, 吉田勝浩, 沼崎広法, 紺野慎一. 大腿骨骨幹部前面に生じた外骨腫に合併した反復性膝蓋骨脱臼の1例. *東北膝関節研究会会誌*. 201907; 28:3-6.

加賀孝弘, 大歳憲一, 加藤欽志, 増子遼介, 佐藤亮平, 猪狩貴弘, 沼崎広法, 紺野慎一. 陳旧性上腕骨内側上顆下端障害が高校野球選手の肘内側障害の発症に与える影響. *日本臨床スポーツ医学会誌*. 201901; 27(1):41-46.

兼子陽太, 加藤欽志, 猪狩貴弘, 増子遼介, 紺野慎一, 大歳憲一, 加賀孝弘, 沼崎広法, 嶋原智彦, 鈴木秀基, 今野裕樹. 高校野球選手の運動器の疼痛が睡眠に与える影響. *日本臨床スポーツ医学会誌*. 201911; 27(4):S193.

猪狩貴弘, 大歳憲一, 加藤欽志, 紺野慎一. 【スポーツ障害評価・治療の新たな手法】スポーツ障害の評価 アスリートの心理ストレス その実態と評価法. *臨床スポーツ医学*. 201901; 36(1):48-51.

猪狩貴弘, 大歳憲一, 加賀孝弘, 宍戸裕章, 紺野慎一, 伊藤恵康, 古島弘三, 古賀龍二. 成長期野球選手における上肢神経障害の有病割合. *臨床整形外科*. 201908; 54(8):805-810.

## 研究発表等

### 〔研究発表〕

猪狩貴弘, 大歳憲一, 紺野慎一. 上腕骨近位端骨折遷延治癒に対する体外衝撃波治療—1例報告—. 第46回生体電気・物理刺激研究会; 20190309; 福島.

加藤欽志, 大歳憲一, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 紺野慎一. 野球選手における腰椎終末期分離の存在は競技生活に影響するのか? 第48回日本脊椎椎髄病学会学術集会; 20190418-20; 横浜.

渡邊和之, 大歳憲一, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林 洋, 大谷晃司, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 学童期バスケットボール選手の腰痛—メディカルサポートは有用か—. 第48回日本脊椎椎髄病学会学術集会; 20190418-20; 横浜.

猪狩貴弘, 大歳憲一, 兼子陽太, 増子遼介, 佐藤亮平, 加賀孝弘, 加藤欽志, 沼崎広法, 紺野慎一. 成長期野球選手における運動器の痛みとストレス反応の関係. 第92回日本整形外科学会学術総会; 20190509-12; 横浜.

渡邊和之, 大歳憲一, 紺野慎一. 学童期バスケットボール選手に対するメディカルサポートの有用性の検討. 第 92 回日本整形外科学会学術総会; 20190509-12; 横浜.

吉田勝浩, 小平俊介, 沼崎広法, 紺野慎一. Ramp lesion に対する FasT-Fix を用いた縫合術の治療成績. 第 11 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会; 20190613-15; 札幌.

渡邊和之, 大歳憲一, 紺野慎一. 学童期バスケットボール選手に対するメディカルサポートの有用性の検討—足関節捻挫を減らせるか—. 第 45 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会; 20190830-31; 大阪.

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 半田隼一, 紺野慎一. 野球選手における腰痛の診断と治療. 第 27 回日本腰痛学会; 20190913-14; 神戸.

渡邊和之, 大歳憲一, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林 洋, 半田隼一, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 学童期バスケットボール選手における腰痛調査の結果から. 第 27 回日本腰痛学会; 20190913-14; 神戸.

加賀孝弘, 兼子陽太, 増子遼介, 佐藤亮平, 猪狩貴弘, 宍戸裕章, 紺野慎一. 70 歳以上の上腕骨近位端骨折に対する人工骨頭置換術の治療成績. 第 46 回日本肩関節学会; 20191025-26; 長野.

加藤欽志, 大歳憲一, 紺野慎一. プロ野球選手における腰椎集末期分離の存在は腰痛による競技離脱を増加させるか? 第 30 回日本臨床スポーツ医学会学術集会; 20191116-17; 横浜.

兼子陽太, 加藤欽志, 猪狩貴弘, 増子遼介, 紺野慎一, 大歳憲一, 加賀孝弘, 沼崎広法, 嶋原智彦, 鈴木秀基, 今野裕樹. 高校野球選手の運動器の疼痛が睡眠に与える影響. 第 30 回日本臨床スポーツ医学会学術集会; 20191116-17; 横浜.

嶋原智彦, 猪狩貴弘, 今野裕樹, 鈴木秀基, 加賀孝弘, 兼子陽太, 加藤欽志, 沼崎広法, 大歳憲一, 紺野慎一. 福島県における高校野球選手に対するサポート 第 3 報. 第 30 回日本臨床スポーツ医学会学術集会; 20191116-17; 横浜.

大戸明文, 嶋原智彦, 三澤辰也, 猪狩貴弘, 今野裕樹, 加賀孝弘, 加藤欽志, 沼崎広法, 大歳憲一, 紺野慎一. 高校野球選手の睡眠障害と生活環境との関係. 第 30 回日本臨床スポーツ医学会学術集会; 20191116-17; 横浜.

猪狩貴弘, 大歳憲一, 兼子陽太, 増子遼介, 嶋原智彦, 加賀孝弘, 加藤欽志, 沼崎広法, 紺野慎一. 高校野球選手における尺骨神経脱臼の有病割合と尺骨神経障害との関連. 第 30 回日本臨床スポーツ医学会学術集会; 20191116-17; 横浜.

渡邊和之, 大歳憲一, 榎村孝憲, 津田清美, 紺野慎一. 小中学生バスケットボール選手に対するメディカルチェック—足関節捻挫の受傷年齢と超音波検査所見の検討. 第 30 回日本臨床スポーツ医学会学術集会; 20191116-17; 横浜.

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 半田隼一, 紺野慎一. アスリートにおける腰椎椎間関節障害の診断. 第 22 回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会; 20191128-29; 高松.

[シンポジウム]

加藤欽志, 大歳憲一, 矢吹省司, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 小林 洋, 半田隼一, 紺野慎一. 野球選手の脊椎障害に対するメディカルサポート. 第138回西日本整形・災害外科学会学術集会; 20191130-1201; 佐賀. 整形外科と災害外科. 68(2):35.

## 外傷再建学講座

### 論 文

#### 〔原 著〕

畑下 智, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 増子遼介, 水野洋佑, 高橋洋二郎, 新田夢鷹, 川上亮一, 紺野慎一. 踵骨骨折の外側壁膝窩に対する bone tamper 修復法. 骨折. 201902; 41(1):224-229.

佐藤俊介, 畑下 智, 伊藤雅之, 川上亮一, 紺野慎一. 足関節果部骨折における Syndesmosis Instability の直視下定量評価法. 骨折. 201906; 41(3):1043-1046.

畑下 智, 江尻荘一, 川上亮一, 高橋洋子, 小林義尊, 紺野慎一. 特発性手根管症候群に対する奥津法(1-portal)と Chow 法(2-portal)の短期治療成績の比較. 日本手外科学会雑誌. 201901; 35(4):625-628.

佐藤俊介, 畑下 智, 伊藤雅之, 川上亮一, 紺野慎一. Variable Angle Locking Hand Plate を使用した手指 PIP 関節背側脱臼骨折の治療—2 例報告—. 日本手外科学会雑誌. 201901; 35(4):729-733.

畑下 智, 川上亮一, 江尻荘一, 紺野慎一, 伊藤雅之, 佐藤俊介, 増子遼介, 水野洋佑. 四肢の主幹動脈損傷に対する temporary intravascular shunt を用いた治療戦略. 日本マイクロサージャリー学会会誌. 201903; 32(1):18-24.

### 著 書・訳 書

畑下 智, 川上亮一. 第3章 総論 膝部の血管解剖と再建法. In: 工藤俊哉 編. 局所皮弁 第3巻 下肢・足. 東京: 克誠堂出版; 201904. p.60-63.

畑下 智, 川上亮一. 第3章 各論 1 膝蓋部: 腓腹筋弁. In: 工藤俊哉 編. 局所皮弁 第3巻 下肢・足. 東京: 克誠堂出版; 201904. p.64-67.

### 研究発表等

#### 〔研究発表〕

Ito M, Sato T, Shinden Y, Sato S, Mashiko R, Mizuno Y, Suzuki T, Hatashita S. To develop artificial